

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2018年11月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



## 中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.81 <教育は、安心の土俵の上に乗っている仕事>

2018年も残すところ、あと2か月を切りました。2019年にむけて、いよいよ準備をする時期です。

今回は、大きな変革をしようとする時に、ブレーキになっている「変える」という心理的抵抗に対して、一つの安心材料を提供していきたいと思います。

私どもMBAが、経営的に困っている塾を再建する時にまずやることは、提案の仕方を変え、提案そのものを大幅に向上させて、子どもたちの学習量を上げることです。

例えば、講習時の設計と提案の変革であったり、入試特訓の設計提案の変革が、スタートになります。この9月からコンサルをスタートした塾も、在籍生が30名を切っていましたが、まず、中3生の入試特訓を設計し、その提案方法を伝授して、子どもたち（この場合は、中3生）の学習量を大きくしました。その塾は、夏期講習で中3生に40,000円の提案が出来なかったのですが、入試特訓で85,000円の提案が出来、尚且つ、それを中3生はじめ、その保護者が受け入れて、受講してくれました。11人中9人が受講してくれました。この提案だけで、夏期講習の売上の2倍弱になり、経営が安定しました。

こんなことをなぜ、私どもMBAのコンサルが指示するのか。なぜ、無謀だと思えるアドバイスをを行うのか。ここには、理由があります。

教育のフィールドには、「安心の土俵」があるのです。例えば、ある人に、教育関係者と言って、警戒する人間は、ほとんどいないはず。つまり、学習塾に入ったら、基本的に、先生が指導してくれることは、正しいと生徒も保護者も思っているということです。

教育のフィールドに入ってきたら、ほとんどの人が安心して、生徒も保護者も「詐欺にあうのでは!？」などとは思っていないのです。

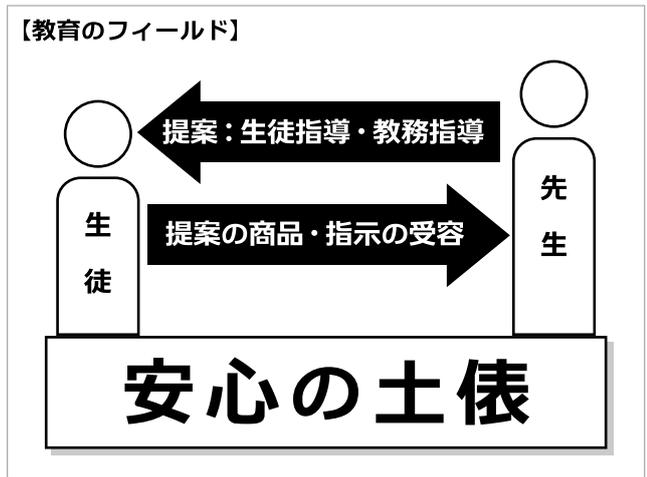
言い換えれば、善意の土俵に、お互いが立っているのです。ですから、提案を最初から拒否することはないのです。

そして、その提案を、(生徒から見ると)自分のために、(保護者から見ると)子どものためにしてくれる先生の言うことをしっかり聞いてみようと思って、彼らは、今までとは違う提案を受け入れるのです。

しかし、そこには必ず根拠が必要なのです。今までは、こういう考えでやっていましたが、これからはこういう考えで、この提案をします!という根拠が必要なのです。そして、こういう変更が、学力向上に寄与すると思うからです!と。こういう根拠の説明がしっかりなされれば、子どもも保護者も新しい提案を受容してくれるはず。これは、私どもMBAが思い切って顧問先の提案を変えてきた理論的根拠です。

しかし、その次が待っています。それは、その「安心の土俵」をしっかり固める作業です。この新しい提案は、安心の土俵の上に成り立っています。ということは、その提案を塾側がしっかり履行しないと、安心の土俵が切り崩されていくことになるからです。責任が強く意識されることになるのです。

ですから、逆に言えば、今までの不十分な指導を変えて、十分な指導に変容する責任を塾側が持つことになります。ここから更なる内部変革の動機が出てくるのです。大きな変革とは、事後的な責任が大きくなることを意味します。変化に対する心理的なブレーキは、失敗をしたらということですが、塾という教育のフィールドでは、変化を起こしても、安心の土俵の上に乗っているで、受け入れてくれる土俵があるのです。しかし、変革をしたら、徹底的に変えていこうとしない安心の土俵が崩れていってしまうものなのです。ぜひ、来年に向けて、大きな変革を起こす塾は、勇気を持ってやってください。生徒も保護者も受け入れてくれるはずですから。



【編集後記】

**MBA学習塾革新メンバー募集中!**

マネジメント・ブレイン・アソシエイツが運営する「塾経営革新メンバー」制度では、毎月、会員の皆様に塾経営・教室運営に今すぐ役立つ情報・ツールを配信しています。

情報交換会や個別相談など、特典もたくさんご用意しています。ぜひ、私たちと一緒に塾業界を盛り上げていきましょう!

▼くわしくはこちらから▼

[https://management-brain.com/members\\_join](https://management-brain.com/members_join)

▼お問合せはコチラ▼

TEL 045-651-6922 Mail: mailadm@management-brain.co.jp

# 数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.45

2020年度の大学入試改革に向けて、学校現場ではどんな対策がとられているのか。学習塾ではどこでもそれなりに対策を進めていますが、高等学校の側はどうなっているのかも大いに気になるところです。

高校生向けに大学等に関する進路情報を提供している(株)さんぼうがこの夏、全国の高校の進路指導部を対象にアンケート調査を実施、先ごろ調査結果を発表しましたので、その一部を紹介しましょう(回答533校)。

## ●貴校の生徒が新たな入試に対応するための課題は何だと考えますか？(複数回答可)

ポートフォリオの作り方・書き方(文章指導等)	76.7%
思考力・判断力・表現力を問う問題への対応	75.8%
英語4技能への対応	68.9%
総合型・学校推薦型選抜で必須化される評価方法への対応	56.3%
国語・数学の記述式問題への対応	44.3%
その他(自由記述)	4.3%

新たに要求される学力(思考力ほか、英語4技能、記述式)と調査書関連(ポートフォリオ、調査書の書き方)、大別すればこの2つが課題と考えているようですね。

小論文の指導などを含めた「学力」についてはわれわれも同様です。が、書類の提出を求められる学校側にとっては、「調査書など」をどうするかという問題も頭痛のタネのようです。

## ●貴校で大学入学者選抜改革への対策として取り組んでいることはありますか。ある場合は、それぞれ具体的に記入ください。

取り組んでいる対策は大きく学習支援サービス、ポートフォリオ関連、民間資格の取得、大学入学共通テスト、調査書関連の5つに分かれるようです。

個々の具体策も出ていますので記載しておきましょう。

### ①学習支援サービスの導入(n=212)

Classi	59.4%
スタディサプリ	22.6%
検討中	7.1%
マネビジョン	5.7%
Finesystem	1.4%
すらら	1.4%
その他	7.1%

生徒たちからはスタディサプリの話がよく出ます。しかし、Classiの方がはるかに多いとはちょっと意外でした。

### ②ポートフォリオに関するサービスの導入(n=209)

JAPAN e-Portfolio	34.9%
Classi	28.2%
マネビジョン	16.7%
検討中	11.0%
スタディサプリ	5.3%
その他	7.7%

ポートフォリオに関してはJAPAN e-PortfolioとClassiが双璧のようです。

ところで、「ポートフォリオ」はご存じのように、個人の活動や思考の過程の詳細な記録ですが、入試改革論議が進行する中で突如浮上してきたものです。入学者を選ぶ大学側(さらにはその後の企業の採用)にとつてずいぶん便利なことはわかります。しかし、このいわば究極の個人情報誰が管理するのか、セキュリティは確保されるのか、個人が支出する経費はいかほどか等々、何も決まっていな中で見切り発車するのはいかがなものか。私にはそこが気がかりでなりません。

### ③民間英語検定・資格試験への対応(n=382)

英検	68.6%
GTEC	58.1%
漢検	2.9%
検討中	2.4%
数検	1.6%
TOEIC	1.6%
TEAP	1.6%
語彙・読解力検定	0.8%
その他	6.3%

英検とGTECの圧勝です。

### ④大学入学共通テストへの対策(n=127)

授業・定期考査改善	35.4%
検討中	18.1%
教科対応・教員分析	14.2%
記述試験対策	7.1%
試行テストの参加	3.9%
進研模試	2.4%
その他	15.7%

授業・定期考査の改善が多いようですが、どう改善するんでしょう。試行テストで出題された問題を参考にしてということなんでしょうか。

### ⑤調査書の様式変更及び入試でのポートフォリオ活用に向けた対策(n=182)

紙ベース	25.8%
検討中	16.5%
Classi	15.9%
Noltyスコラ手帳	1.6%
スタディサプリ	1.6%
マネビジョン	1.6%
その他	18.1%

やはりまだ紙ベースですね。調査書の様式自体、はっきりとしていませんのでやむを得ないでしょう。

改めて感じるのですが、この改革はまさに「改革ありき」といっても過言ではありません。拙速に過ぎて、高校現場やわれわれ塾事業者やまた大学を混乱させるだけならまだしも、生徒たちにも大きな犠牲を強いています。大方の反対を押し切って強行することで、誰が得をするのか。推進する側の責任者に詳しく尋ねてみたい気がします。